

NEXT 長崎人材育成事業 担当者意見交換会 報告

1. 日時：令和6年8月27日（火） 9:45-11:45 場所：出島メッセ会議室103

2. 出席者：67名

- 産業界 15名：農業2名、工業3名、商業2名、情報4名、水産2名、福祉2名
- 学校 29名：農業5名、工業7名、商業6名、情報6名、水産3名、福祉2名
- 知事部局 10名：農業1名、工業3名、商業3名、情報1名、水産1名、福祉1名
- 本庁 13名：高校教育課（企画監、総括、キャリア教育班、関係指導主事等）

3. 総括：

グループ・参加者	主な意見	今後の対応
農業 諫早農業高校、北松農業高校、西彼農業高校、農業経営課、JA 長崎中央会、中道係長	<ul style="list-style-type: none"> • 農業は多分野にわたるため、<u>どの分野に絞って学びを進めていくか検討する必要もある。</u> • 産業エキスパートセミナーとの違いが分かりにくい。 • 実習をする際に必要な需用費に予算は使えないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • どの分野に絞って進めていくのか検討し、改めて内容を精選していく必要がある。 • 関係各所に情報共有をしながら、お互いに負担とならない連携を進めていきたい。
工業<半導体関係> 長崎工業高校、大村工業高校、未来人材課（半導体NW）、浜田指導主事	<ul style="list-style-type: none"> • 建設業協会のように、<u>インターシップ受け入れ可能企業を一覧で紹介してほしい。</u> • <u>実物を見せていただく体験が、生徒の半導体に関する興味関心を高めることに繋がる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • 12月に関係者を学校に集めて協議・意見交換会を実施する。 • 大村工業、長崎工業で次年度に向けたカリキュラムを検討する。
工業<工業会関係> 長崎工業高校、佐世保工業高校、島原工業高校、大村工業高校、企業振興課（工業連合会）、未来人材課、梅野指導主事	<ul style="list-style-type: none"> • 長崎工業高校が、長崎工業会との協議会を10月中に予定。大村工業においても年度内に協議会を設ける予定。 • <u>ロボコンの技術指導や助言、部品製作などで連携を図りたい。</u> • <u>「学びの連携が可能な企業一覧表」（技術分野・連携分野を書き込んだもの）というものを作成・提供いただくと連携が進むのではないか。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • 長崎工業と長崎工業会の協議会が、実習の見学等を含めた協議会となるよう依頼。 • 県工業連合会事務局と連携コーディネータ等との協議を持ち、実施可能な具体策を練る。

<p>商業 佐世保商業高校、島原商業高校、諫早商業高校、長崎商業高校、商工会議所連合会、経営支援課、田中指導主事</p>	<ul style="list-style-type: none"> • <u>商業教育のアップデートが遅れている。産業界のニーズに適合していないのではないか。</u> • <u>産業界にとって、商業教育を知る機会が少ない。</u> • <u>学校、産業界ともに人材育成での連携を進めることに前向き。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>授業見学会および意見交換会を実施し、今後の産学連携の可能性を検討したい。</u> • <u>幅広い商業科にあって、まずは観光分野に絞って取り組み、その後、横展開していきたい。</u>
<p>商業<観光> 佐世保商業高校、島原商業高校、観光振興課、十八親和銀行、直塚企画官、長尾指導主事</p>	<ul style="list-style-type: none"> • <u>観光ビジネスの授業をどのように進めていけばよいのか教員にノウハウがない。机上だけで指導することに限界がある。</u> • <u>学んだことをアウトプットする場として、「ビジネスプランコンテスト」などに参加することを提案したい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>学校の要望にマッチする人材の派遣し、出前授業等を実施することも検討する。</u> • <u>次回、学校で意見交換会を実施することを検討していく。</u>
<p>情報 大村工業高校、島原商業高校、諫早商業高校、長崎商業高校、新産業推進課、長崎県情報産業協会、CAC、馬場参事</p>	<ul style="list-style-type: none"> • <u>情報の学びと社会で必要とされる力とのギャップ、問題意識。</u> • <u>情報が日進月歩であり、先生方も勉強していく必要。</u> • <u>情報は社会の問題を解決するためのものであり、課題解決能力の育成が必要。</u> • <u>生徒にどこまでの資質能力を求めるのかについて、整理する必要。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>学校での授業見学・意見交換会については、個別に調整をはかる（学校ごとの振り分けも必要）。</u>
<p>水産 長崎鶴洋高校、水産経営課、長崎県漁業協同組合連合会、榮岩主任主事</p>	<ul style="list-style-type: none"> • <u>長崎鶴洋と一緒に魅力的な業界になることを目標にやっていきたい。</u> • <u>今年度の水産科の生徒は18名。少ない人数で航海・機関・情報・コンサル・進学の5つのコースをどうしていくか課題。</u> • <u>加工場など学校施設だけでは十分に行えないこと産業界と連携して実施した。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>実習の部分の課題が多かったため、実習場の見学と意見交換会を合わせて実施する。</u>
<p>福祉 口加高校、長寿社会課、長崎県社会福祉協議会、富永課長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> • <u>中学生に加え、保護者や中学校の先生に福祉科の学びを知っていただく機会が必要である。</u> • <u>今後も協議会等を通じて連携を強化し、福祉の魅力を伝えること、人材確保での協力を進める。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>11月のオープンスクールで福祉科のブースを設定し、アピールする。</u> • <u>学校見学をしていただく機会を作る。</u>

4. アンケート結果（概要）：（回答者31名）

①産官学連携・NEXT 長崎人材育成事業について

- ・NEXT 長崎人材育成事業の内容・説明 【3.6点/4点】
- ・事例紹介・説明 【3.5点/4点】
- ・産業界と高校の連携の現状 【2.8点/4点】⇒この数値の向上を目指す
- ・今後の連携の意向 【3.8点/4点】

（アンケートの主な意見）※産業界の連携に向けての意見

<産業界>

- ・ 企業側のみが教育機関を訪れるのではなく、行政機関も同行する点で、情報の共有や互いの知るべき内容が整理される為、良い取り組みだと感じました。
- ・ 私どもIT企業は、最新の情報処理のツールや仕組みを活用することで様々な、社会（お客様）課題を解決しております。その意味では、工業・農業・水産業・商業の分野にまたがります。それぞれの分野の人材育成に関して、基礎力の向上や専門性を持たせることは重要と思いますが、学ぶ生徒が、問題発見する事、課題解決する事に興味を持たせる事（＝その後、自ら学習する姿勢にする）が大切であると考えます。また同時に、それを支えるこの事業においても、それぞれの分野内の議論にとどまることなく、共有して意見交換する場にしてほしいと考えます。

<学校>

- ・ 産業教育振興会など学校と産業にサポートしている組織はすでに存在している。現存する組織とのかかわりも気になるところです。また、学校間で足並みが揃うようにしてほしい。
- ・ 工業高校は、関係団体と連携協定を締結しているが、県全体での動きとして展開できていない部分がある。本事業を活用し、連携をより密にし事業を進めていきたい。
- ・ 多くの先生方にもしっかりとアナウンスしてほしいです。学校によってはあまり読みもしないで終わってしまうところがあるのではないかと思います。
- ・ 定期的（継続的な）な連携が大切だと思いますが、学校の行事等と連携先の都合が一致しない時がある。また、連携先との距離や移動時間、移動手段、または原材料費の必要性などもあります。

<知事部局>

- ・ 学校側も業界の動向と授業内容がマッチしているのかがわからないという課題が生じていることがわかったので、非常に参考となった。
- ・ 冒頭のご挨拶でも触れられたとおり、属人ではなく組織的なつながりにしていくことで、持続可能な取組になっていくと思われるので、当課としてもその視点で取り組んでいきたい。

(アンケートの主な意見)

<産業界>

- 「水産分野」といっても漁師や船舶関係・水産企業等、様々なパターンがあり、個別の内容を精査するまでに至りませんでした。今後は、企業目線の水産分野や、教育機関目線の水産分野など、様々な視点からお互いのメリットを模索し、連携を図りたいと感じました。また、教育機関が「長崎鶴洋高校」のみでしたので、今後は普通科高校からも水産分野に魅力を持ってもらう活動を実施したいと思います。
- 先生は日常業務で手一杯とお聞きしております。常に新しくなる情報処理分野で、これを教える分野で最新情報を得たり（日々更新）することは、難しいと考えます。（さらに先生の時間が無くなる＝悪循環）。先生が生徒より先に教えるために学ぶ（習得する）という姿勢は、通用しなくなりつつある分野であると思いました。
まずは、どのような人材像とするのか定義の上、生徒に基礎を学ばせ、外部から講師を招き、先生と生徒が最新情報処理分野の状況を定期的に受講できる（刺激を受ける。一緒に学ぶ）ような仕組みを作る事が良いかな。と先日の意見交換の場で感じました。
- 産業界のメンバーを増やしていただければ、より多様な意見が出ると思います。
例；長崎県商工会連合会、長崎県中小企業団体連合会 など

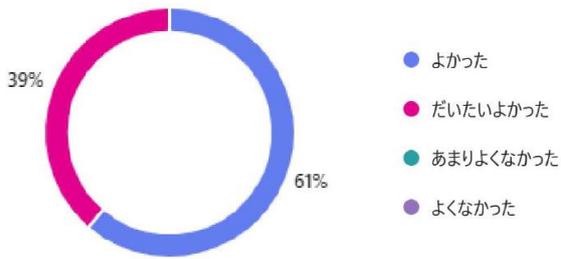
<学校>

- 学校現場の要望をたくさん聞いて頂き、助言もいただくことができ短い時間でしたが充実した会でした。分野別意見交換会の商業A・Bどちらでも出てきた、「学校現場を産業界の方に見ていただいて授業やカリキュラムに助言いただくような機会」をぜひ実現していただき、産業界のトレンドを学校教育に取り込んでいければと思います。
- 産業界と高校が情報教育に関して差を感じた。積極的に教えを請い、生徒に還元できるよう努力をしなければならない
- 農業高校と言え、分野が栽培や飼育の農業分野、食品加工分野、生活分野他、かなり幅が広いのでどの分野で連携するのか、今回はそこが不透明な感じだった。
- たくさんのお話ができて本当に良かったです。外部の方とどのように繋がっていけばいいか、課題だったので、協力いただいて、生徒に還元できるようにしていけたらと思います。

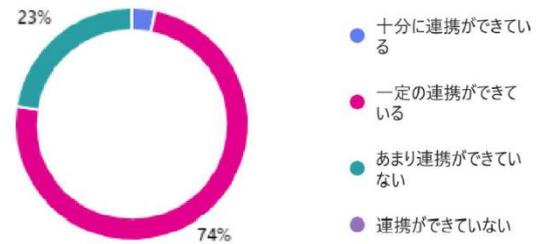
<知事部局>

- 学校側から直接意見を伺うことができたのは非常にいい機会になったので、次はいかに行動に移せるかが重要だと思う。工業会は、規模感も大きいため、どうすれば効果的に活動ができるのか教育庁と連携をしながら進めていきたい。
- 今回は総論的な話として事務局などで開催されたかと思いますが、今後、分野別に進めていく中では実際の採用担当者や実務担当者との意見交換が必要と思います。

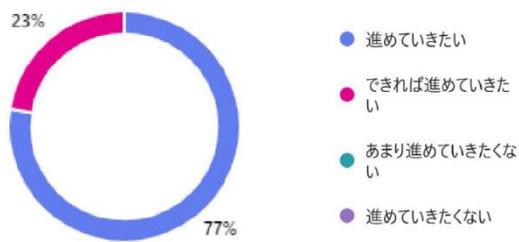
9. NEXT長崎人材育成事業の内容・説明について



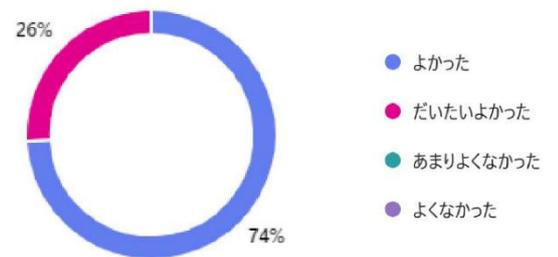
11. 「産学官の連携」・「学びの連携」の現状について



12. NEXT長崎人材育成事業を通じた「産学官の連携」・「学びの連携」について



14. 分野別意見交換会について



6. 実施の様子

